

Title	膀胱異物(チューインガム)の1例
Author(s)	重村, 克巳; 結縁, 敬治; 片岡, 頌雄; 岩本, 孝弘
Citation	泌尿器科紀要 (2002), 48(4): 229-230
Issue Date	2002-04
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/114732">http://hdl.handle.net/2433/114732</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

## 膀胱異物 (チューインガム) の1例

市立西脇病院泌尿器科 (部長: 片岡頌雄)  
重村 克巳, 結縁 敬治, 片岡 頌雄

市立加西病院泌尿器科 (部長: 岩本孝弘)  
岩本 孝弘

A CASE OF FOREIGN BODY IN THE URINARY BLADDER  
—CHEWING GUM FOUND IN URINARY BLADDER—

Katumi SHIGEMURA, Keiji YUEN and Nobuo KATAOKA  
From the Department of Urology, Nishiwaki Municipal Hospital  
Takahiro IWAMOTO  
From the Department of Urology, Kasai Municipal Hospital

We experienced a case of a 60-year-old male with a foreign body in the urinary bladder. He had inserted chewing gum into the urethra for the purpose of masturbation, and it had slipped into the bladder.

We collected 1,436 cases of vesico-urethral foreign body from the Japanese literature including our case, and reviewed these cases with some statistical analysis.

(Acta Urol. Jpn. 48 : 229-230, 2002)

**Key words:** Vesico-urethral foreign body, Chewing gum

## 緒 言

膀胱異物は必ずしも稀な疾患ではなく、日常診療上、目にすることのあるものである。今回われわれは膀胱内のチューインガム異物に対して、氷水を膀胱内に注入してガムを固化することにより内視鏡的に摘出できた1例を経験した。若干の文献的考察を加えて報告する。

## 症 例

患者: 60歳, 男性

主訴: 頻尿

既往歴 家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 2000年3月27日, 数カ月前よりの頻尿, 排尿困難を訴え, 当科を受診した。

初診時現症: 胸部, 腹部に異常を認めず, 直腸診にて軽度の前立腺の肥大を認めた。

検査成績: 尿沈渣は赤血球 0~4/hpf, 白血球 5~9/hpf, 尿培養 尿細胞診は陰性。

膀胱造影検査: 前立腺肥大症を疑わせる, 前立腺の膀胱への軽度の突出を認める以外に, 膀胱内に異常な陰影欠損を認めた (Fig. 1)。腫瘍とは陰影が異なり, 何らかの膀胱異物の可能性を疑って, 膀胱鏡検査を施行し, 膀胱内に白色浮遊異物を認めた。異物には間違いないので再度詳細に病歴を聴取した。すると以前よ



Fig. 1. Vesicography shows an abnormal shadow defect (arrows).

りチューインガムを噛んで細くし, それを冷蔵庫で冷却し, 自慰目的で尿道内に挿入していた。今回はそれが取れなくなり, 来院したことが明らかとなった。

治療経過: 膀胱内の異物がガムと判明したので, ヤングの異物鉗子にて除去を試みたが, ガムは鉗子でひっぱると伸びるばかりで摘出が困難であった。チューインガムは冷却により固化するという性質を利用し, 冷凍庫で凍らせた生食水を混ぜて氷水を作成

し、これを還流液として膀胱内に注入したところ、膀胱内のガムが固化し、同鉗子で何回かに分けて、摘出することができた。かなりの量のチューインガムが膀胱内に挿入されていた。なお、この患者は約1カ月後に再度前回と同様排尿困難を主訴に来院したが、その原因に付き何かを隠しているような様子であったため、再度膀胱鏡検査を施行したところ、再び膀胱内に多量のチューインガムを認めた。再度患者自身が挿入したものと思われ、同じ方法でガムを摘出した。

## 考 察

本邦の膀胱尿道異物については1917年に小沢ら<sup>1)</sup>が18例を報告して以来1996年の三浦ら<sup>2)</sup>の1,367例まで統計的考察がなされてきた。その後報告された自験例も含め記載が明らかな69例を加えた合計1,436例にて統計的考察を行った。

### 1) 膀胱尿道異物の種類 (Table 1)

体温計・鉛筆類、糸などが多く、続いて針・ヘアピン類、ゴム製品、ろう製品、植物類、ビニール製品、金属製品、後は手術遺残など医原性によると思われるガーゼなどが続いている。また稀な膀胱尿道異物としては、嚥下異物の侵入や外傷によるものがある。また

Table 1. Characteristics of the kind of foreign body

種類	症例数	%
糸	224	15.6
体温計・鉛筆類	221	15.4
ゴム製品	141	9.8
針・ヘアピン類	139	9.8
ろう製品	114	7.9
植物類	104	7.2
ビニール製品	102	7.1
金属製品	102	7.1
ガーゼ その他	290	20.2
合計	1,436	100

Table 2. Characteristics of the invading route of foreign body

侵入経路・原因	症例数	%
1. 経尿道性	857	59.7
(自慰)	( 514)	( 60 )
(性戯)	( 149)	( 17.4)
(尿道拡張・導尿)	( 105)	( 12.3)
(その他)	( 89)	( 10.3)
2. 経膀胱壁性	399	27.8
(産婦人科手術)	( 163)	( 40.9)
(泌尿器科・外科手術)	( 130)	( 32.6)
(その他医原性)	( 29)	( 7.3)
(その他)	( 77)	( 19.2)
3. 経路不明	180	12.5
合計	1,436	100

性差としては、男女間で尿道の解剖学的差異から違いがあり、男性ではゴム、ろう製品が多く、女性では体温計、鉛筆類などが多い。

### 2) 膀胱尿道異物の侵入経路 (Table 2)

経尿道性が経膀胱壁性よりも多く、半数以上を占め、またそのなかでは自慰、性戯目的によるものが最近多く報告されているために、増加傾向にある。一方、経膀胱壁性は全体の3割以下で、最近その報告数は減少傾向であり、そのほとんどが産婦人科・泌尿器科・外科手術に起因する医原性異物であった。なかでも特に産婦人科手術によるものが多く報告されている。

治療法としては一般に非観血的な経尿道的異物摘出が先ず行われ、それでは摘出困難な、巨大な異物、尿路外へ出てしまったものなどについては観血的治療が施行されているが、近年の診断技術と内視鏡器具の進歩により非観血的治療が増加傾向にあり、問診、画像、内視鏡所見などから膀胱尿道異物が疑われれば、まずは内視鏡的摘出が試みられるべきであると考えられた。

## 結 語

経尿道的に挿入された膀胱異物の1例を若干の文献的考察を加え報告した。

本論文の要旨は第174回日本泌尿器科学会関西地方会にて報告した。

## 文 献

- 1) 小沢慶三郎：順天堂医事研究会雑誌 **540**：962-978, 1917
- 2) 岸 浩史, 碓井 亜, 石部知行：膀胱内異物の1例. 西日泌尿 **49**：1675-1677, 1986
- 3) 片岡真一, 松本 茂, 亀井義弘, ほか：膀胱異物の2例. 西日泌尿 **51**：1323-1326, 1989
- 4) Eckford SD, Persad RA, Brewster SF, et al.: Five year review. Br J Urol **69**：41-45, 1992
- 5) 石田 章, 朴 勺, 小西 平, ほか：経尿道性膀胱異物の5例. 西日泌尿 **49**：563-566, 1987
- 6) 秋山道之進, 西村元一, 津川昌也, ほか：膀胱尿道異物(温度計)の1例. 西日泌尿 **55**：876-879, 1993
- 7) 菅本隆雄, 清家 泰, 越知憲治：膀胱内異物挿入を繰り返した1例. 西日泌尿 **55**：1233-1234, 1993
- 8) 三浦 猛, 谷口哲也, 池田伊知郎, ほか：外傷性膀胱異物(衣類片)の1例. 泌尿器外科 **9**(7)：585-588, 1996
- 9) Mitchel WM: Self insertion of urethral foreign bodies. Psych Quart **42**：479-486, 1968
- 10) 赤尾利弥, 羽淵友則：膀胱・尿道異物除去. 臨泌 **54**(増刊)：156-158, 2000

(Received on November 12, 2001)  
(Accepted on January 4, 2002)